

③「異年齢混合の子ども社会」についてお伝えしたいと思います。

子どもたちを取り巻く環境には、教具や自然などの「モノ」の他に「ヒト」も必要不可欠なものです。この「人的環境」の中には様々な年齢の子どもがいる「子ども社会」があります。



「見て学ぶ・やってみる・教えて学ぶ」

年齢の違う子どもたちと一緒に生活をすれば、自然と仲間を観察したり、真似をしたり、学び教え合う姿が見られます。

自分でやりたいことを選んで活動するには、「あの子がしているのが面白そうだからやってみよう!」「まだこれは難しそうだからやめておこう」というように、あらかじめ知識が必要なのです。小さい子は大きい子を憧れの眼差しで観察し、大きい子はそれがとても気持ちよく感じ、小さい子に教えたり手伝ったりします。



3クラス（縦割りクラス）では、年長児が未満児クラスにお手伝いに行ったり、年中・年長児が小さい子のお世話をすることで自分が誰かの役に立っていることを感じ、自信をつけていきます。



年齢の違う子どもがいることは、すでにそれだけで思いやったり、思いやられたり、それから認められたり、褒められたりという人間の生活にとってとても大事な部分がたくさんあります。